

鉄骨梁スタッド取付要領

Aタイプ

Bタイプ

Cタイプ

Dタイプ

梁	タイプ	梁フランジ幅 (B)	スタッド径	スタッドピッチP	スタッド長さℓ
大 梁	A	$B \geq 400$	19φ	200 (300)	スラブ厚さ(t) $150 \leq t \leq 100$
	B	$400 > B > 250$	19φ	200 (300)	
	C	$B = 250$	19φ	200 (300)	スラブ厚さ(t) $150 < t \leq 120$
	D	$B < 250$	19φ	200 (300)	
小 梁	A	$B \geq 400$	19φ	300 (300)	スラブ厚さ(t) $150 \geq t \leq 100$
	B	$400 > B > 250$	19φ	300 (300)	
	C	$B = 250$	19φ	300 (300)	スラブ厚さ(t) $150 < t \leq 120$
	D	$B < 250$	19φ	300 (300)	

(注) 1. 使用スタッドはJIS B 1198 (頭付スタッド) に規定するものとする。

2. スタッドの取付範囲は床スラブが取付く鉄骨梁とする。

3. 大梁上はデッキプレートは切断し、スタッドを貫通溶接しないこと。

() 内ピッチは合成床板部を示す。

梁上端に段差のある場合の取付け要領

大梁継手位置と小梁とが干渉する場合の取付要領	梁継手部デッキ受付け要領 (参考図)	フラットデッキプレートとRC梁又はSRC梁との納まり (参考図)
<p>溶接ビードはグラインダー仕上げする。</p> <p>この位置は大梁ウェブ継手をはずす。</p>	<p>フラットデッキ合成床板用デッキプレート共通</p>	

着工	平成 28 年 6 月 25 日	
竣工	令和 元年 11 月 30 日	
監理		監理 日建・上田特定監理業務等共同企業体
施工		施工 大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体

フラットデッキスラブ取付要領

一般部

梁天端とスラブに差がある場合 ($B \leq 200$)

梁天端とスラブに差がある場合 ($B > 200$)

梁天端とスラブに差がある場合 ($100 < H \leq 300$)

デッキ幅方向

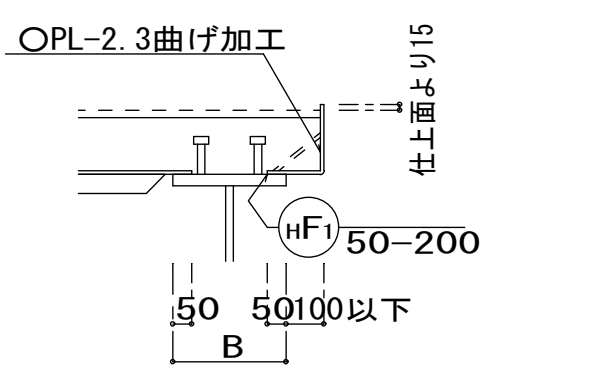
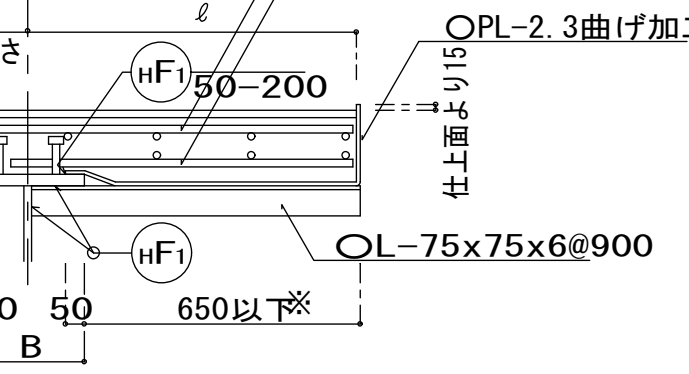
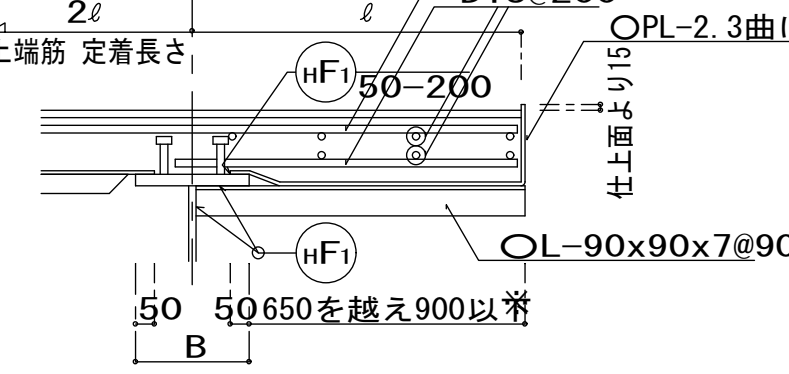
床スラブ段差部 (1)

床スラブ段差部 (2)

床スラブ段差部 (3)

床スラブ段差部 (4)

※ 床スラブ段差が250mmを超える場合は監督職員の指示による。

フラットデッキスラブコンクリート流れ止め及び片持部要領		
<p>注) 取り付け範囲は建物外周部及び各開口部廻り</p>  <p>梁より床スラブの片持が100以下</p>	 <p>梁より床スラブの片持が650以下</p> <p>※ 梁より床スラブの片持が650mmを超える場合は監督職員の指示による。</p>	 <p>梁より床スラブの片持が650を超え900以下</p> <p>※ 梁より床スラブの片持が900mmを超える場合は監督職員の指示による。</p>

フラットデッキの許容スパン(参考図)

デッキプレート(捨型枠)開口補強要領図

単位 (m)			
デッキ厚 打設コンクリート スラブ厚	1. 0	1. 2	1. 6
160以下	~ 2. 7	~ 2. 8	~ 3. 1
190以下	~ 2. 5	~ 2. 7	~ 3. 0
210以下	~ 2. 4	~ 2. 7	~ 2. 9

注) 1. フラットデッキ厚さは、スラブ厚さ及びデッキスパンにより上表のとおり採用するものとする。

2. 作業荷重は、1470N/㎡を想定している。施工状況を考慮し、再検討すること。

3. 表中の許容スパンの設定については、打設コンクリートスラブ厚(打増分も含む)の重量
デッキプレート重量 及び上記2. の作業荷重を想定している。

4. デッキプレートの許容スパンは、鉄骨フランジ間又はコンクリート梁面間寸法に両端の
かかりしろの合計寸法を加えた寸法とする。

5. 小梁間隔が3200mm超3900mm以下となる床スラブを受ける場合はロングスパンデッキとする。
3900mm超は中間サポートを設ける。

1. 部のスラブは型枠にデッキプレートを使用しない場合またはデッキプレートが
支保工等でサポートされる場合はスラブ筋補強のみで鉄骨による補強は不要とする。
2. 本図を超える床開口補強要領は別途協議による。
3. 各部材の接合方法はガセットプレートHTB-P-6 高力ボルト2-M20とする。

鉄骨開口補強基準

補強部材材質はSS400とする。

開口寸法	符号	補強部材断面	(開口寸法)
$L1 < 1000$		補強無し	
$1000 \leq L1 \leq 1500$	a	$\triangle L-75 \times 75 \times 6$	
$1500 \leq L1 \leq 2000$	a	$\triangle H-125 \times 60 \times 6 \times 8$	
$L0 \leq 1500$	b	$\triangle H-150 \times 75 \times 5 \times 7$	
$1500 < L0 \leq 2500$	b	$\triangle H-200 \times 100 \times 5.5 \times \mathbf{8} (2 \leq 2000)$	
$2500 < L0 \leq 3500$	b	$\triangle H-200 \times 100 \times 5.5 \times \mathbf{8} (2 \leq 1000)$	
		$\triangle H-248 \times 124 \times 5 \times 8 (L2 \leq 2000)$	

補強部材接合要領は、下記による。

完成図 構-69

日建・上田特定設計委託業務
共同企業体

高知市都市建設部公共建築課

高知市新庁舎建設工事

構 69
6 -

鉄骨要領図 (2)

NO. 0-140004-B